

改定
蒲田駅周辺再編プロジェクト
（蒲田駅周辺交通戦略）
（骨子案）

（目次）

章	項目
1. 背景と目的	・ 背景・役割 ・ 対象範囲 ・ 計画の位置づけ
2. まちの将来像	・ 新空港線開業時の蒲田駅を中心とした将来像
3. まちづくりの方針	・ 基盤整備（中長期）の整備コンセプト ・ 蒲田駅周辺の全体像 （将来交通ネットワークとまちづくりの姿） ・ 駅と東西駅前広場のイメージ ・ 蒲田駅周辺の動線イメージについて ・ 駅前広場と駅ビルとの連携について ・ 新空港線との乗換空間の整備について ・ 東西駅前広場整備の進め方について

1. 背景と目的

背景・役割

平成25年に「蒲田駅周辺再編プロジェクト」（以下「再編PJ」という）を策定してから約10年が経過し、蒲田を取り巻く状況は日々変化しています。

令和4年度にはまちの将来像や目標、方針を定める「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」を改定するとともに、JR・東急蒲田駅を中心とする地区の基盤施設の整備方針として「蒲田駅周辺地区基盤整備方針」を策定しました。

また、新空港線については整備に向け、令和7年1月から都市鉄道利便増進法に基づく手続き等が関係者により進められ、第一期整備の事業に向けた動きが本格化しています。一方で、令和4年度に策定した「蒲田駅周辺地区基盤整備方針」についても、その後の関係者等との調整により、具体化してきています。

以上を踏まえ、新空港線開業時（令和20年代前半）を見据えて蒲田が将来に渡って持続的に発展、新空港線の整備と合わせて進めていく必要がある駅周辺の交通ネットワークや基盤整備の方向性などを整理し、再編PJの改定を行います。

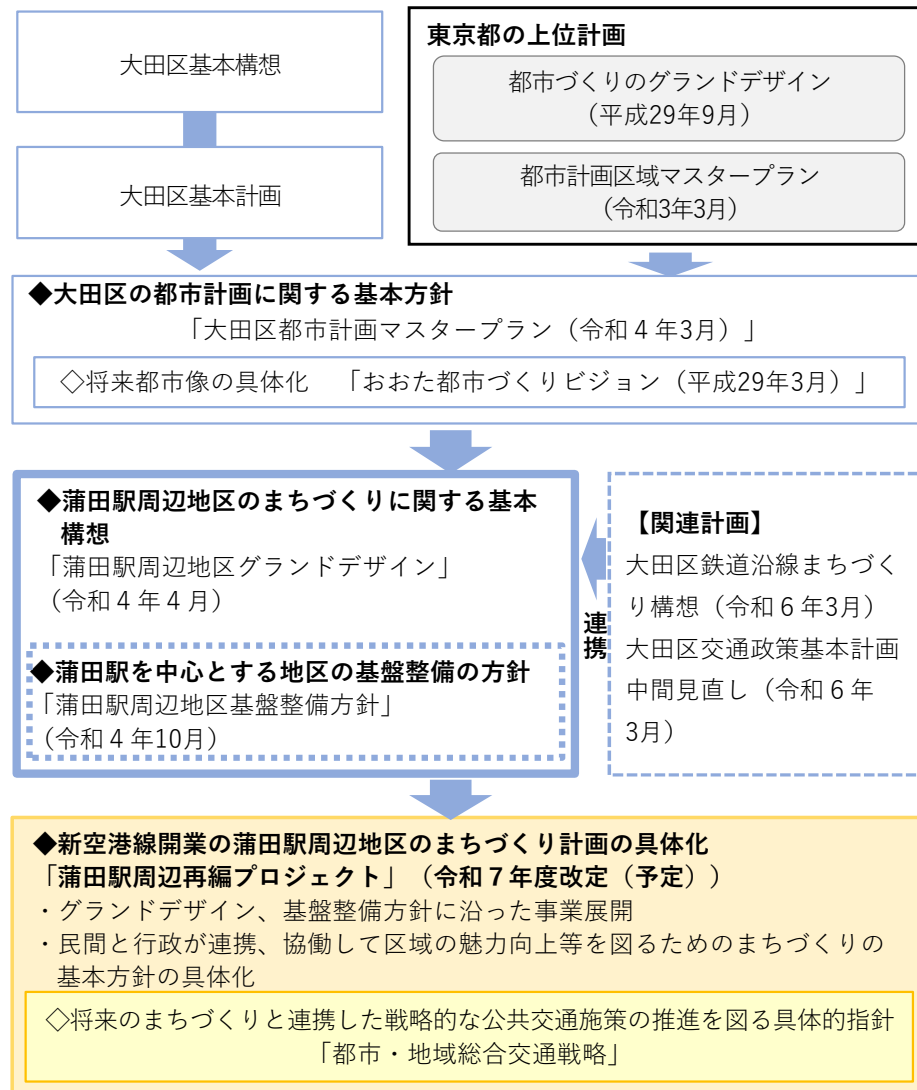
再編PJの対象区域

再編PJの対象区域は、蒲田駅を中心とする地区（概ね半径200m圏）を基本とし、将来交通ネットワークなどについては、対象区域だけではなく、蒲田駅周辺地区グランドデザインと連動する周辺部との広域的な視点も踏まえた上で検討します。



計画の位置づけ

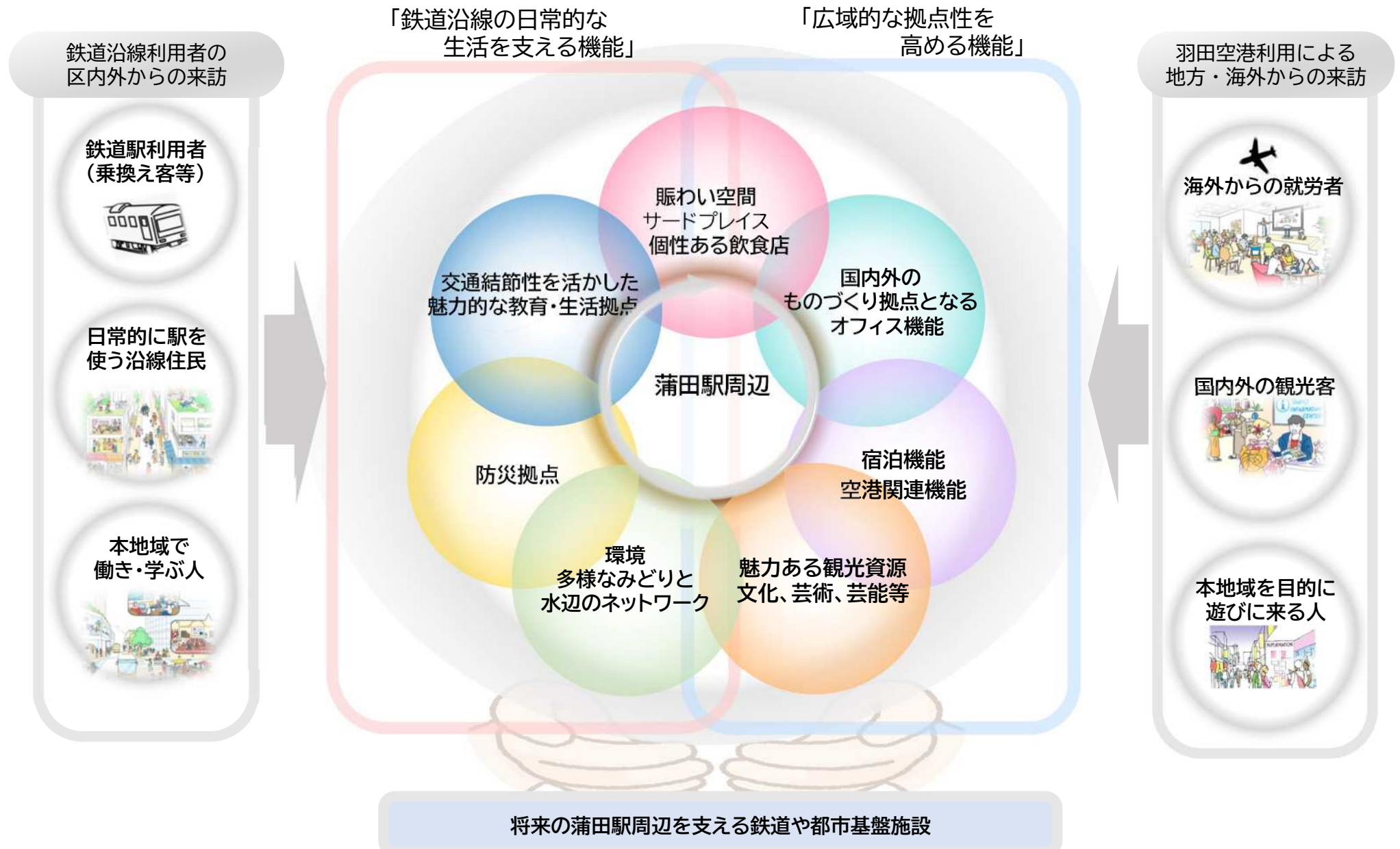
再編PJは、「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」に即し、主に蒲田駅を中心とする地区について、具体的な施設整備の内容と、実現化に向けた手順・方策（事業手法）などを整理しています。



2. まちの将来像

今後、新空港線整備に合わせ、鉄道沿線の日常的な生活を支える機能など、駅周辺のにぎわいや拠点性を高めると共に、羽田空港との結びつきも更に強化されることから、立地特性を活かし、広域的な拠点性についても高めていきます。

新空港線開業時の蒲田駅を中心とした将来像

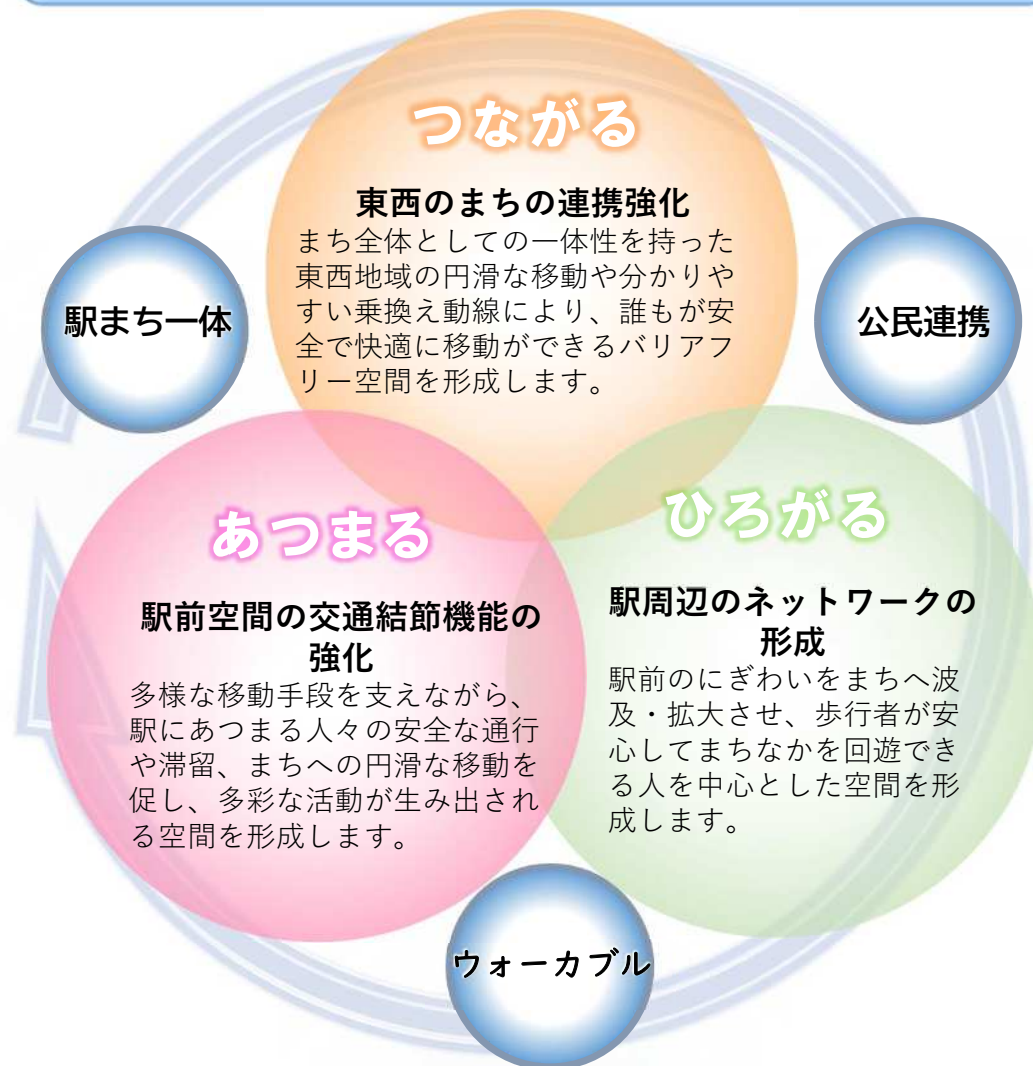


3. まちづくりの方針

基盤整備（中長期）の整備コンセプト

これまで上位計画で示してきた「つながる」「あつまる」「ひろがる」に、最近のまちづくりの潮流等を踏まえた「新たな視点」を追加し、整備コンセプトの深度化を図りました。

文化・交流・にぎわい創出の拠点として国内外とつなぐ、まちをつなぐ～多彩な「活動」が広がる、まちをけん引する交通結節点～



■新たな視点

駅まち一体まちづくり

新空港線整備が具体化される蒲田駅において、駅舎、駅ビル・駅前広場・周辺地域を「駅まち空間」として一体的に捉え、関係者が共通の「まちを良くする視点」をもち、連携した整備を行います。

蒲田駅周辺の東西地域をつなぐ、居心地のよいウォーカブルなまちづくり

蒲田駅周辺において、広場・緑地の配置や滞留ができる魅力ある空間を創出しつつ、都市骨格軸を中心に東西地域をつなぎエリア全体の回遊性を向上させ、人中心のまちづくりを目指します。

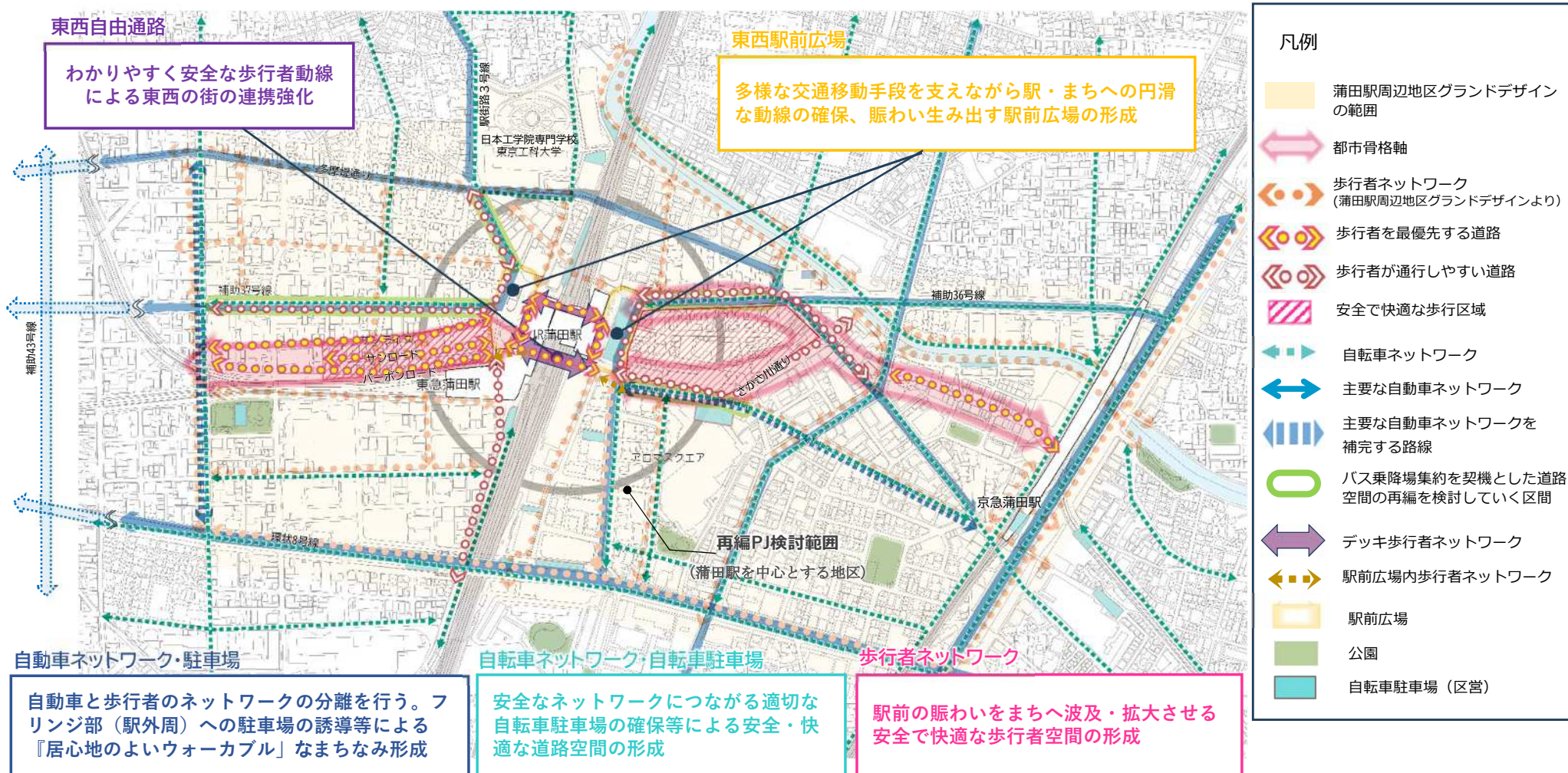
公民連携の「にぎわい」の周辺地域への波及

東西自由通路や乗換空間など駅周辺の都市基盤整備と駅舎・駅ビルなどの機能更新を、公民が連携して一体的かつ段階的に取り組むことによって、「にぎわい」を駅周辺に留めるのではなく、周辺地域への波及・拡大を図ってまいります。

3. まちづくりの方針

蒲田駅周辺の全体像（将来交通ネットワークとまちづくりの姿）

ネットワークと基盤整備が一体となった、公共交通中心のウォーカブルなまちづくりを推進します。



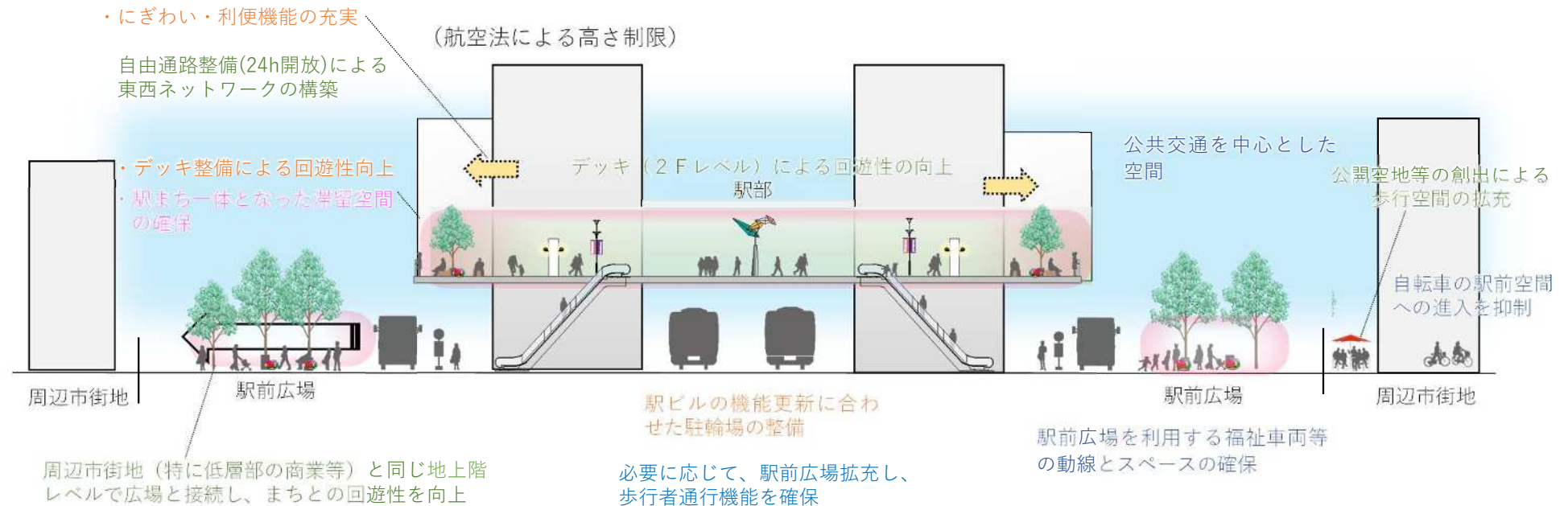
3. まちづくりの方針

駅と東西駅前広場のイメージ

東西の駅前広場とその周辺の基本的な考え方を整理します。

□基本的な考え方

- 駅前広場** ・ 駅前を歩行者と公共交通を中心とした空間とする（タクシーや自動車等は分離して配置）
- 歩行者NW** ・ 橋上駅と駅ビル周辺は2Fレベルで連結し、東西や駅周辺の回遊性を高める
・ 周辺市街地（低層部の商業等）と駅前広場は地上階レベルで接続し、まちとの回遊性を高める
- 立体利用** ・ 駅前広場の重層利用によるデッキ空間の整備及び広場上空の高度利用の促進により、新たな賑わいと活力を創出する
- 滞留空間** ・ 駅にあつまる人々の多様な活動や滞留、みどりの創出や魅力ある空間を形成する



『※今後の各施設整備の検討状況などにより変更の可能性があります。また、各施設の位置や規模などは現時点でのイメージです。』

3. まちづくりの方針

蒲田駅周辺の動線イメージについて

駅や駅前にあつまる人々や活動をまちへ広げる歩行者ネットワークを形成していくために、鉄道間の乗換利用者や駅からまち、まちから駅へ流れる人々が快適に移動できる歩行環境を確保することが重要です。

この実現に向けて、駅や東西のまちをシームレスにつなぎ、デッキ階と地上階レベルの歩行者動線を重層的に確保した歩行者ネットワークを形成してまいります。

階層別歩行者動線ネットワーク

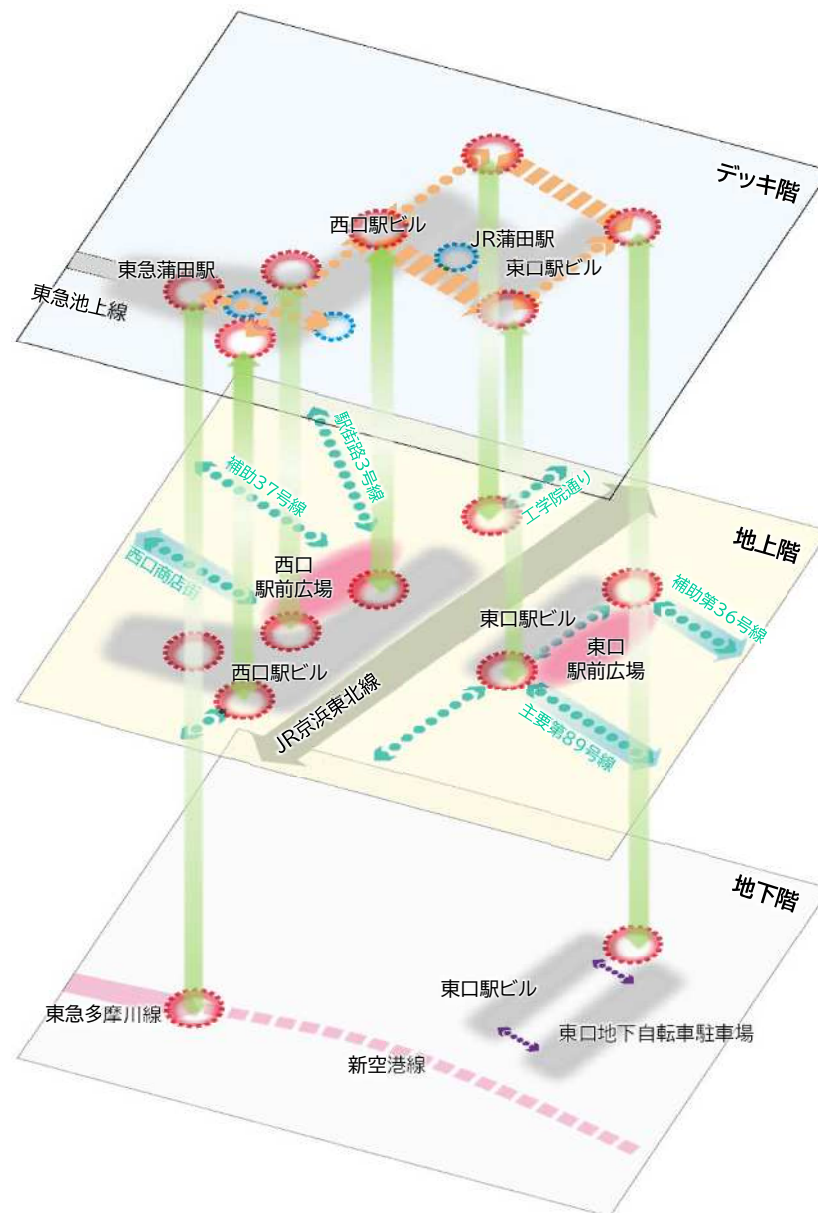
(1) デッキ階レベルのネットワーク

デッキ階レベルの歩行者ネットワークは、東西のアクセス性や、鉄道相互の乗り換え利便性を向上させることが大切です。そのため、まちの東西を結ぶ自由通路・連絡通路を駅ビルの更新とあわせて整備するとともに、駅改札間を分かりやすくつなぐ歩行者動線を建物内にも確保してまいります。

(2) 地上階レベルのネットワーク

デッキ階レベルの歩行者ネットワークと地上階レベルの歩行者ネットワークをシームレスにつなぐことでランドデザインで示した都市骨格軸を東西一体の歩行者空間として形成することができます。

そのため、東西自由通路と都市骨格軸をつなぐ縦動線を確保するとともに、駅前広場と駅前につながる道路空間を安全で快適な歩行者空間として整備してまいります。



【凡例】



※今後の各施設整備の検討状況などにより変更の可能性があります。
また、各施設の位置や規模などは現時点でのイメージです。

3. まちづくりの方針

駅前広場と駅ビルとの連携について

課題

- 蒲田地域は、区内で最も緑地・広場面積が少ないエリア。
※ 蒲田地域の公園・緑地の整備面積（0.34㎡/人）
※ 区内平均5.25㎡/人、区目標6㎡/人（大田区緑の基本計画グリーンプラン おおたR5年3月）
- 蒲田駅周辺は公共空間に余裕がなく、緑地・広場の確保や魅力的なオープンスペース創出のため、駅ビルの機能更新と連携した立体的な空間活用が必要。
- 蒲田駅周辺において、震災や水害時の一時的な退避スペース等、防災機能を高めることが必要。

基本的な考え方

① デッキ階レベルの回遊性・防災機能の向上

東西自由通路と北側連絡通路を結ぶ広場デッキを駅ビル空間に確保し、デッキ階レベルにおける歩行者の回遊性向上を図ります。また、防災機能の可能性についても検討していきます。

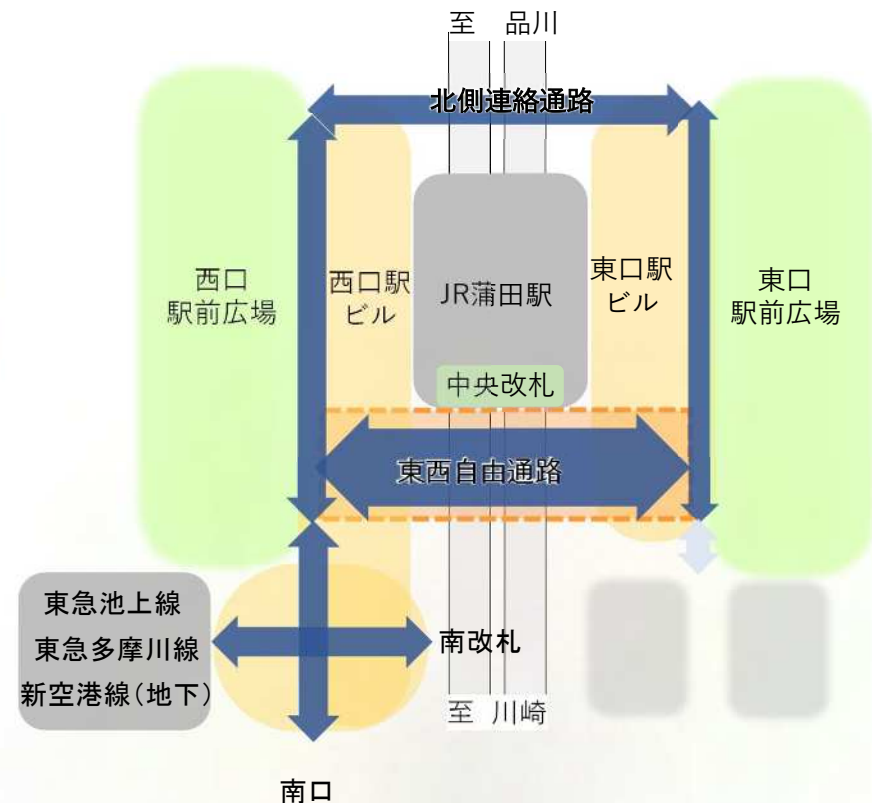
② 立体的な広場の活用

駅ビルの機能更新に合わせて駅前広場を重層的に活用し、みどりの創出や魅力ある空間を形成します。

③ 魅力ある空間の創出

立体的な広場空間の上部は、駅ビル空間等として活用し、公民連携により駅ビルの機能更新や魅力向上を図ります。

デッキ階レベルの回遊性イメージ



3. まちづくりの方針

新空港線との乗換空間の整備について

課題

- 今後、新空港線の整備や駅周辺の機能更新により、従来の乗換動線が変わることから、鉄道や駅ビル等を利用する人にとって分かりやすい乗換動線、魅力的な乗換空間の創出が必要。
- 周辺開発等に伴う人流の増加を考慮し、歩行環境の更なる改善を図り、駅の魅力や拠点性を高めることが必要。

基本的な考え方

①交通結節点機能の強化

⇒誰もが乗り換えを円滑にできる整備を行う
(視界良好な動線・幅員、交通情報機能、移動時間の短縮等)

②再訪したくなる『駅まち空間』づくりの強化

⇒滞留空間整備 (一時的な待合空間等)



- 駅・まちへの滞在時間、再訪数を増加させ、経済性に寄与
- 駅・まちを中心とした『にぎわいの活性』を周辺に波及

【整備の方向性について】

●乗り換え回遊性の確保

- ・『東西自由通路から南方向への動線』および『東急線からJR南改札方向の動線』の動線交差部における、歩行者の安全な回遊性の確保

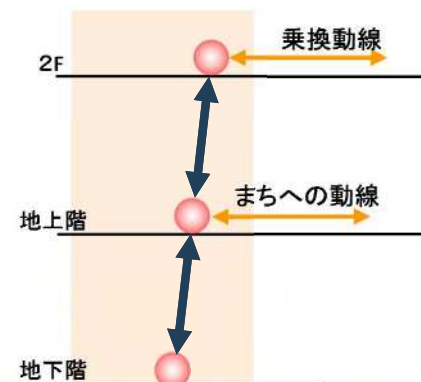
●まちとの接続

- ・高架から新空港線整備による地下への切り替えに伴い、地上への分かりやすいアクセス動線を確保する

【乗換空間イメージ】



【断面イメージ】



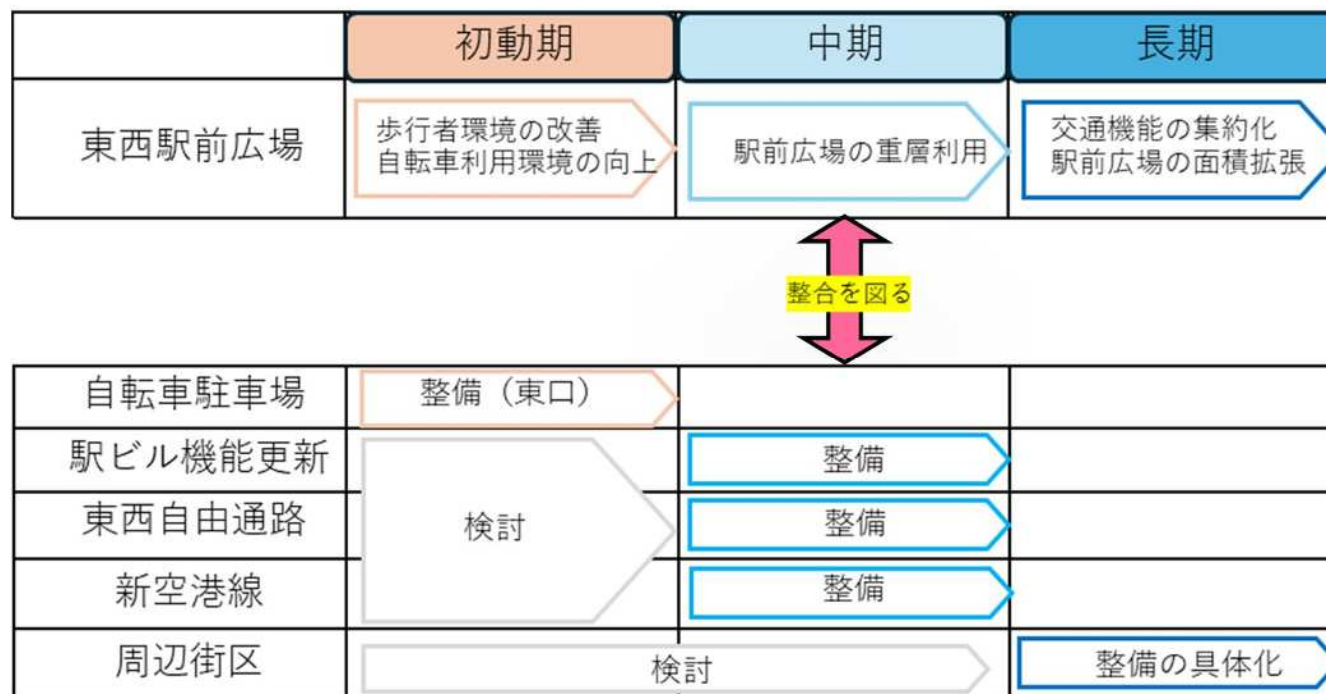
※図はイメージであり、詳細は関係者との調整を踏まえて、具体化していきます。



3. まちづくりの方針

東西駅前広場整備の進め方について

- 平成25年に策定した「蒲田駅周辺再編プロジェクト」から、新空港線及び東西自由通路整備、駅ビルの機能更新と整合を図るため、中長期整備の基本的考え方に準じた整理を行う。



【初動期・中期整備後の東西駅前広場の課題について】

新空港線に向けた整備後、まちの価値を更に高めるための東西駅前広場における課題整理を行う。

（東西共通）

- ◆駅周辺に分散している交通施設（バス等）を駅前広場に集約し、駅利用者の乗換え利便性交通結節機能を強化する。
- ◆歩行者や自動車ネットワークを踏まえ、駅前広場内において安全で快適な歩行空間の創出を図る。
- ◆駅からまちへの動線を確保するとともに、にぎわいや滞留空間を強化する。
- ◆駅とまちを結ぶ歩行者動線など、周辺街区との連携や整合を図りながら検討を進める。